



発行日
2009年7月15日

内容：

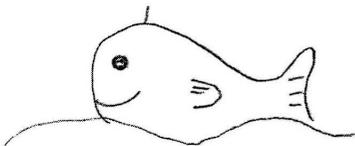
「ボランティアで見えたもの」
人間科学科4年 高野 樹里

- ・ ボランティアで見えたもの
高野 樹里
- ・ 宿泊体験を通じて
石田 敏之
- ・ 私にとってボランティア活動とは
倉持 恵
- ・ ボランティアを通して感じたこと
嶋田 安希子
- ・ 学校現場で学んだこと
小島 俊祐
- ・ ボランティア活動を通して考えたこと
弾塚 幸恵
- ・ 初めてボランティアに参加して
志賀 あゆ美
- ・ 大学の講義では得られないもの
浅野 尚子

私は3年次より学校ボランティアの活動を始めました。玉川大学での通信教育で小学校教員免許を取得しようとして勉強を始めたことをきっかけに、現在は横浜市内大口台小学校で、週1日活動をしています。3年次は、大学の授業の関係で1日小学校にいられることが難しく、授業の合間を見つけて伺っていました。4年次には時間の余裕もでき、1日を児童と共に過ごせるようになりました。

主な活動内容としては、低学年の授業補助です。授業中に騒いだり、出歩いてしまったりする児童を中心に、そばについて気持ちを落ち着かせながら授業に向かわせるように指導しています。以前、低学年では学習習慣を身につけさせることがとても重要であると先生からお話をいただいたことがありました。それ以降は、特にその点に注意して活動するようになりました。いいことはいいい、ダメなことはダメと、学校での集団行動におけるルールを児童に学ばせるように指導することは、私の中で最重要項目として念頭にあります。それでも、ボランティアを始めたころはなかなか叱ることができずに悩むことがありました。褒めることよりも、叱ることの方が難しいと気づけたのも、ボランティアをしていたからこそだと思います。

また私と児童との信頼関係が形成されていないと、褒めたり叱ったりしても心に響かないということも、活動を通してわかったことです。ボランティアをしばらく続けていると、なかなか言うことを聞かない児童がでてきてしまいました。担任の先生だと言うことを聞くの



にどうしてだろう…と考えるようになって見え
てきたのが、児童との信頼関係がうまく形成さ
れていないということでした。限られた時間の
なかでできることを考え、例えば名前と呼んで
あげる、リアクションは大袈裟なくらいにし
ること…などを実践しています。そして、休
み時間は一緒に遊ぶというのも重要です。授業
よりも児童とコミュニケーションが取りやすい
ので、休み時間は外で思いっきり遊ぶようにし
ています。

児童期は成長が著しく、毎回ボランティアに
行くたびに成長を感じます。その成長を側で見
られる嬉しさが教師のやりがいだと感じ、また
教師をめざしてよかったという思いにつながり
ました。教職の勉強をしている、ぼんやりと
しかみえていなかったものが、実際に現場に入
ることでクリアになり、体験しないとわからない
ことが多くあることに気付かせてもらいました。
学校は人と人との関係の上に成り立つもの
なので難しいですが、そこにとっても魅力を感じ
ることができました。

「宿泊体験を通じて」 人間科学科4年 石田 敏之

私は7月2日、3日の2日間、大口台小学校
の5年生の宿泊体験に参加させていただきました。
この2日間で、私の未熟な点、これから改
善していかなければならないことが見つかりま
した。それをいくつか挙げたいと思います。

1、臨機応変な対応

宿泊体験では普段の授業アシスタントのとき
以上に臨機応変な対応が求められ、非常に勉強
になりました。自分自身の判断で行動すること
が難しいとはいえ、自分で今なにをすべきか、
もっと考えて動くことができればよかったと思
います。実際のところは先生の指示を聞いてか
ら動くことがほとんどでした。もっと言えば、
先生の指示を待っていることも多かったです。

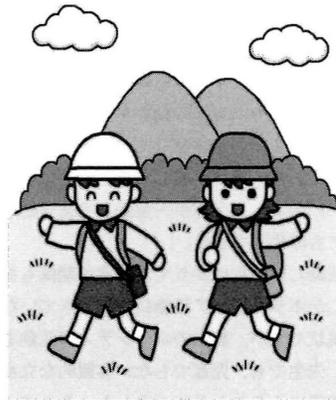
2、子どもたちへの指示

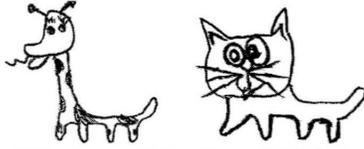
子どもたちの様子はというと、学校にいる時
とは異なり、非常にテンションが高く、舞い上
がっている子が見られました。そのような子を
落ち着かせ行動させるために先生方はときには
厳しく叱ったり、優しく諭したり、さまざまな
方法で対応していました。私は子どもたちが予
定通りに動いてくれないと感情的になってしま
い、子どもたちに指示がしっかり伝わっていま
せんでした。

3、先生自身が元気であること

今回の宿泊体験で、教師という仕事の楽しさ、
過酷さを知ることができました。子どもたちと
一緒にさまざまな体験をすることは本当に楽し
かったです。その一方で、宿泊体験の間、気が
休まることなく、常に子どものことを見続け
るという緊張感は正直、大変でした。しかし、
先生方は疲れた素振りを見せることなく、常に
笑顔で元気でした。私は元気が続きませんでした。

このような反省点をしっかり克服していき
たいと思います。また、私も将来、先生方よう
な教育のプロになれるようにこれからもボラン
ティア活動を通じて学んでいきたいと思いま
す。もちろん、子どもたちと過ごす時間も大切に
したいと思います。





「私にとってボランティア活動とは」
人間科学科3年 倉持 恵

私は4月から週に1日、大口台小学校でボランティア活動をしています。主な活動内容としては、低学年のクラスの授業補助です。授業中に騒いだりする児童や席を離れてしまう児童についています。また、5月には5年生と一緒にY150の校外学習の引率をさせていただきました。

実際に学校という場で児童と関わり合う中で学ぶことは数多くあります。その中の1つとして、私が毎回のボランティア活動の目標としているものに「児童との関わり方・コミュニケーション」があります。児童は、私に対して、先生というよりも大学生として接してきているように感じます。そのために、言う事を聞いてもらえなかったり、怒っても効果がないようなことがあります。これは、私自身の話し方や言い方にも問題があるのかと思います。私に対して、心を開いて様々な事を話してくれる児童も多く、仲良くなるという事に関しては毎回満足できていますが、先生としての対応については試行錯誤状態です。なかなかこの目標達成することは難しいですが、1回ではなく、2回、3回の活動の中で解決策を見つけていこうと努力しています。

また、Y150の校外学習を引率させていただいた際には、先生方の実際の動きを見ることができました。児童たちが休憩している時も、先生方は働いており、児童が楽しめるためにはどうしたらいいのか、先生方が一生懸命考えている姿がとても印象的でした。

まだ活動し始めたばかりで、授業の関係もあり数回しかボランティア活動に参加できていないのが現状ですが、数回のボランティア活動を通して、先生でも、児童でもない客観的な立場で学校現場に入ることができました。そこで、私の教師になりたいという気持ちがさらに強くなりました。教員採用試験まであと1年……。

これからもボランティア活動を通じて様々な事を学び、自分の力にしていきたいと思います。

「ボランティアを通して感じたこと」
人間科学科3年 嶋田 安希子

私は、今年の四月から週一回大口台小学校へ学校ボランティアに行っています。まだ、三か月しか経っていませんが、毎回ボランティアに行く度に元気いっぱい児童からパワーをもらい、そして多くのことを学んでいます。最近では、児童の顔と名前も一致してきて、児童も私のことを覚えてくれて、やっと少し慣れてきたように感じています。

ボランティアでは、主に低学年の教室を担当していますが、自分が小学生だった頃の教室の様子とは全く異なり、初めは児童に圧倒されるばかりでなかなか思うように動けずに戸惑いだけでした。しかし、大口台小学校の先生方に優しいお言葉をかけていただいたり、良いアドバイスをたくさん頂いて、徐々に積極的に動けるようになってきました。児童との信頼関係を築くのはとても難しいことですが、純粋な毎日輝いている児童の素直な気持ちと同じように私自身も、姿に固い殻にこもらずに、児童と向き合って児童と共に成長していく姿勢を大切にすれば、この先もっと良い関係が築けるのではないかと思います。

学校ボランティアは、教科書や学校の講義では絶対に学べない多くのことを実体験でき、自分の力を試しながら向上させるとてもいい経験ができる場です。たとえば、休み時間では、授業中に見せない無邪気な児童の様子を見ることができたり、一緒に鬼ごっこをして自分自身も幼い頃に戻ったような気持ちになって、普段味わえない環境に入ることもできました。大人には失われている部分をいくつも知らされました。また、児童の方から色々な話をしてくれたり、一週間前に体調が悪かった児童を保健室に連れて行った際には、翌週に、「先週は、ありが

とうございました」と一年生の児童から言われたりと、私が想像していた以上に一年生がしっかりしていることに驚いたと同時に嬉しさも感じました。

おそらく、教育現場は大変なことの方が多いと思います。そして、体力と精神力もとても重要だと感じました。しかし、一日として同じ日は無く、児童は日々成長していています。些細な成長でも、それを様々な視点から見る事ができる、この経験は、小学校教員を目指す私にとってかけがえのない宝の日々となるでしょう。課題だらけの毎日ですが、これからも熱意を持って、児童と真正面から向き合っていく、ボランティアで経験した貴重な時間を大切にしながら頑張っていきたいと思っています。



「学校現場で学んだこと」
人間科学科3年 小島 俊祐

「小島先生！！」小学校で児童に初めて呼ばれた時に、嬉しさと共に先生として責任感を感じたことを今でも覚えています。私は今年の2月から横浜市立太尾小学校で学校ボランティアを始めました。現在は週に1日、アシスタントティーチャーとして授業の補助をさせて頂いています。主な活動としては、低学年の授業補助や集団で学ぶことが苦手な児童の取り出し授業、特別支援級の補助、自習クラスの指導、課外活動の引率などです。新学期の低学年の学級は特

に落ち着きが無く、座ってられない児童や教室から出て行ってしまいう児童への寄り添いや、担任の先生の手の回らない児童への対応を中心に活動させて頂いています。

授業のサポートや取り出し授業の指導では無理に勉強させるのではなく、児童自身の主体性のもと、どのようにしたら児童の気持ちに乗せて学習させることができるのかを毎回の課題としています。その他にも、受け持つ学級の児童一人と一日一回は話すようにすることや、授業中と休み時間のメリハリの付け方、喧嘩の仲裁などその日によって自らの課題を決めて参加しています。

まだまだ失敗の連続ではありますが、失敗からたくさんを学んだり、担任の先生の対応を見本として見て学んだり、教えてもらったりして現場で学べる喜びを毎回味わっています。自習のクラスに入った時は、的確で理解しやすい短い指示を出すことが先生として大切なのだと感じましたし、特に特別支援級の児童に対しては、視覚的な指示や短くて簡単な指示などが有効だとも感じました。

学校ボランティアを通して学んだことは児童に対する先生方のわかりやすい説明の仕方のコツや話を聞かせるための雰囲気作り、厳しくする時は厳しくすることの大切さなど他にもたくさんあります。また、児童たちからも多くのことを教えてもらっています。本当に行く度に現場では学びがたくさんあります。自分に足りない課題もわかってきます。また、先生方の陰の努力や苦勞も知ることになりましたが、それ以上に自分も教師になりたいという気持ちがさらに強くなりました。今では「よしお先生！！」「違う！！俊祐先生です！！」といった児童とのやり取りも一つのコミュニケーションとして、楽しくなってきました。

最後に、児童たちは先生のことを見ていないようでよく見ています。そのことを自覚して児童たちにとって見本となり、児童の成長の栄養剤となるような教育のできる教師になるためにこれからも頑張っていきたいと思っています。

「学校ボランティア活動を
通して考えたこと」
法律学科3年 弾塚幸恵

私は、横浜市立太尾小学校で今年の3月からアシスタントティーチャーとして週に一度、午前中にボランティア活動をしています。現在のところ、授業中落ち着きのない生徒への対応や、取り出し授業のサポート、机間巡視などを中心に、自習クラスの監督や、校外学習の引率などにも参加させて頂きました。太尾小学校の場合は当日になるまで担当のクラスや、一日の流れが分からないため、毎回新鮮な気持ちと良い緊張感をもって臨むことができます。

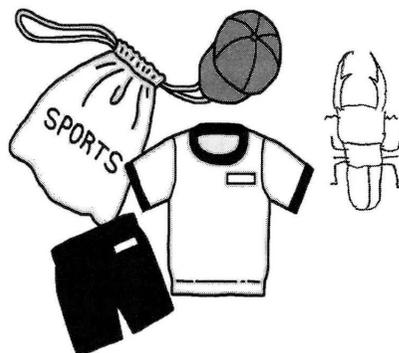
まだボランティアを始めて日は浅いですが、今では児童の素直な感性や、元気な笑顔、新しい一面に出会うことが私の毎週の楽しみの一つになっているといっても過言ではありません。また、実際に教育の現場に入ることによって、先生方のお話をうかがうことができたり、児童に指導されている様子を拝見する機会があるのも、とてもよい経験になっています。教師を志す身として、大変有意義な時間を過ごすことができます。

しかしながら、初めのうちは本当に何もかもが上手くいかず、不安や悩みや後悔は尽きませんでした。「先生」と呼ばれる一方で、自分自身の指導の仕方や児童への接し方に自信が持てず、帰り道は反省の連続でした。

そのような中、2年生の自習クラスに監督に入る機会がありました。初めて教卓の前に立ち、児童に指示を出し、図工の授業のサポートをした時の緊張や感動は今でも鮮明に覚えています。今思えば、とても至らない「先生」っぷりでしたが、教師という職業の大変さと偉大さを身を持って体験できたと思っています。

児童の、真剣でキラキラしたあの表情をもっと見たい。そのためにどうすれば良いか…自習の日以来、それが私の目標になりました。そしてこれからもずっと考え続けていくのだと思います。

学校ボランティアは、決して楽しいことばかりではありません。常に辛いことや、悩み事はついてきます。けれど子どもたちの成長に携わっているという実感は、何物にも代えがたい貴重な経験です。今後も児童たちと一緒に色々なことを学び、教壇に立てる日を夢見て努力して参ります。



「初めてボランティアに参加して」
工学部情報システム創成学科2年
志賀 あゆ美

私はこれまで塾講師のアルバイトをしたり、ボランティアに参加したことはありません。先生として勉強を教えることを一度やってみたいと思っていたとき、白幡小学校のボランティア募集のお知らせを知りました。私は中学校・高校の数学の教職課程を取っていますが、勉強を教えるということでプラスになると思い、このボランティアに参加することにしました。

白幡小学校のボランティアは土曜の午前中に行われており、子どもたちの勉強をサポートするものです。基本的に子どもたちが学校の宿題を持ってきて、ボランティアは子どもたちがわか

らないところを教えてください。先日の第一回では最初ということもあり、子どもたちは各自で自由に計算練習や漢字ドリルを勉強していました。

まだどう教えたらいいか、どう接していけばいいか、ほとんど分からず手探りの状態ですが、これからも楽しみながら参加していきたいです。

「大学の講義では得られないもの」 情報システム創成学科 2年 浅野尚子

私は今年の6月から横浜市立白幡小学校でのボランティアに参加しています。週に一度行われる土曜塾で、2年生の担当です。実際に始まったのは6月27日のため本文を執筆時点でまだ2回目ですが、早くも多くの貴重な経験をさせていただいています。

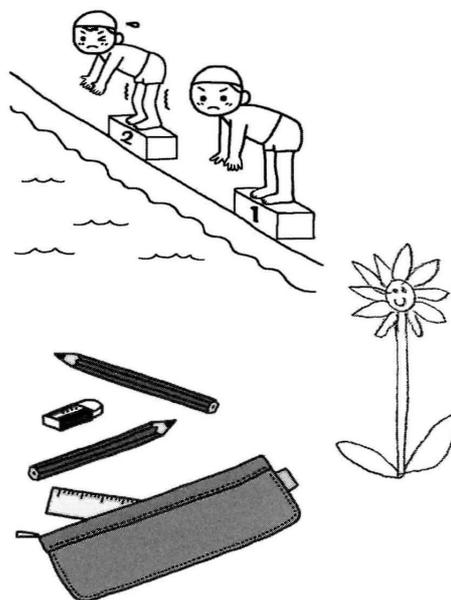
初日は女の子3人、男の子3人の計6人の児童が相手でした。どの子も自分なりに一生懸命取り組んでいました。疲れた～、と声が上がったので、休憩にしようか？と言うと、まだやる！と返され、こちらが少し心配になるくらい皆頑張り屋で驚きました。そんな彼らの勉強を精一杯手助けしたいと思いましたが、実際はなかなか上手くいきません。先生一、先生一。次々に呼ばれて机を右往左往。次の子を待たせてしまうのがとても心苦しかったです。途中、通りかかった先生に助けていただくこともあり何とか終えましたが、自分の無力さや現場の先生がた大変さを改めて感じました。

そうして2回目。前回の反省を踏まえつつ、今度は大丈夫だろうか、前回よりきちんと出来るだろうか、と不安でしたが、やはり子供たちの笑顔を思い出すと今日も頑張ろうと思えるのでした。その日の担当は元気いっぱいの男の子5人。私の他に担当者がもう一人いたので実際は分担して3人くらいを受け持つ形でした。もう一人の担当者が慣れている方でしたので心情の面でもとても助けられました。前回より落ち着いてきちんと教えられたと思います。勉強

を終えて読書をすることになり、一緒に読もうと言われた時は本当に嬉しかったです。無邪気な笑顔に、たくさんの元気を貰いました。

慣れない事だらけでまだまだ及ばない点もありますが、少しでも児童たちの力になれるよう頑張っていきたいと思います。そして、自分も共に成長していけたらと思います。既に週一度の土曜塾が楽しみです。

こういった「学び」は大学で机に向かっているだけでは絶対に得られないものです。有難い経験をさせてもらっているなあ、と改めて感じると共に、この貴重な経験を活かせるよう、もっともっと色々な事を吸収していきたいです。



神奈川大学 教職課程指導室
電話：045-481-5661（内線 4228）
FAX：045-413-4154
E-mail：educ@kanagawa-u.ac.jp